

胆沢病院紹介

岩手県立胆沢病院院長の郷右近です。圭陵会の皆様に胆沢病院の紹介を致します。

当院は岩手県奥州市（東北本線沿い、仙台と盛岡のほぼ中間）にある病床数 346 床の県立病院で奥州市+金ヶ崎町を医療圏域にしており対象人口は 15 万人程度です。東北新幹線水沢江刺駅まで車で 10 分であり、東北自動車道奥州スマート IC まで 3 分ほどの、岩手県内では比較的交通便利地域にあります。

沿革としては昭和 11 年に医療産業組合による購買利用組合胆沢病院として開設され、昭和 25 年に岩手県農業会から県に移管となり現在に至っています。地域の中核病院として救急から専門医療まで幅広く、その機能を発揮しています。また新臨床研修制度の始まるかなり前の昭和 40 年代から数多くの研修医を育て、伝統的に研修医指導に重きをおき、来年度の研修医採用も幸い 8 人のフルマッチを得ています。うち 6 名が岩手医科大学卒業予定の学生で、かれらに期待するとともに重責を感じています。屋根瓦方式を中心にした熱い（厚い）研修医指導体制には定評のあるところでしょうか。

病院の基本理念は「私たちは、地域の人々の健康と命を守るため愛を持って地域医療に貢献します」としており、「愛」を組み込んでいる特徴のある理念であろうと考えています。またスローガンとして「誇りを持てる職場」「人を育てる病院」を掲げており、厳しい中にも温かい雰囲気のある病院であると自負しています。私も含めてですが、研修医時代を胆沢病院で過ごし、その後大学医局を経て、再び胆沢病院に戻って長く勤務する医師が多くいます。胆沢一家ともいえるような状況ですがこれが病院の大きな底力になっているといえます。

岩手医科大学から今までも多くの医学生に実習や病院見学に来てもらっていますが、さらに多くの学生さんに当院の雰囲気を感じ取ってもらいたいところです。

医師の医局からの派遣に関しては、東北大、岩手医科大、秋田大と三大学から派遣されています。岩手医科大の各医局からは常勤だけでなく外来診療応援も多くいただいております。感謝の限りです。各科お互い協力し合いながら切磋琢磨するバランスの良い体制で、高い医療レベルも維持されています。全国有名病院に匹敵する症例数の科もあり、またダビンチ手術も泌尿器科、外科、呼吸器で数多く施行されているため専攻医も多く集まっています。

これからの医療を考えますと社会が超高齢化を迎え、この地域の限られた医療資源をいかに有効に活用していくかが差し迫った課題となっています。それを実現するためのキーワードは「連携」であると考えます。病院・診療所・歯科・薬科・福祉・介護・行政など、全てが密に連携して、地域全体として考えるシステムが必要です。胆沢病院はその中にあって、当院の役割を十分果たせるよう、そして地域住民の皆様が安心して暮らすことができるように、地域医療を守るために職員一丸となり「愛」をもって、精一杯の努力をしていきたいと思っております。圭陵会の皆様からの応援・ご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。